

【国語】 < 小学校 第5学年 >

1 結果のポイント

「聞く能力」については、話題の中心を聞き取る力や内容を分かりやすく伝えるための話し手の工夫を聞く力をみる問題の正答率が80%を上回っており、力が身に付いている。他方、話し手の意図を聞き分ける力をみる問題の正答率は80%を下回っており、力が十分身に付いているとはいえない。

「書く能力」については、自分の考えを分かりやすく伝えるために立場や理由をはっきりさせて書く力をみる問題の正答率が80%程度であった。目的や意図に応じて書く力は付いてきているものの、必要のある事柄を適切に取捨・選択して書ける力までには至っていない。

「読む能力」については、文章の内容にそって読む力、筆者の書き方の工夫を考えながら読む力をみる問題の正答率が75%程度で、力が十分身に付いているとはいえない。

「言語についての知識・理解・技能」については、文の中での正しい語句の使い方を理解したり、学習した漢字を読んだりする力をみる問題の正答率が90%を上回っている。他方、漢字を書く力をみる一部の問題の正答率が60%を下回り、力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 何について話し合われているかを考えて話し合いの内容を聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> の一

一 話し合いで中心となっている話題はどんなことですか。次の中から一つ選び、その記号を の中に書きましょう。

ア お父さんにサッカーボールを買ってもらったことのうれしさについて

イ チラシの広告ですばらしい景品がもらえたことについて

ウ 大げさに書かれたチラシの広告をどう思うかについて

エ チラシに書いてあったサッカーボールの値段ねだんのちがいについて

<結果> 正答率 85.9% (正答...ウ)

<分析>

話題の中心を聞き取る力を調査する問題である。話し手の話し始めの「みなさん、このチラシを見てください。」の表現と、話し手の最も伝えたい「このチラシには『どこよりも安い。』と書いてあるのです。ぼくは、こういうチラシはよくないと思います。」の内容をとらえたことによって、話し手の主張の軽重を聞き分け、話題の中心を聞き取ることができたと考えられる。誤答で多いものは、エである。「サッカーボール」「値段」という言葉のみに着目し、話し手の意図を聞き取ることができなかったと思われる。

(2) 自分の考えをわかりやすく伝えるために、立場や理由をはっきりさせて書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> の四

四 「新聞に入っていたチラシの広告を見て買い物をした」ときの佐藤さんの意見について、あなたは、どのように考えますか。あなたの意見（賛成、反対など）とそのように考えた理由（経験したことなど）を入れて、五行以上七行以内で書きましょう。

<結果> 正答率 80.3%

<分析>

話し手（佐藤さん）の意見を踏まえながら、賛成、反対の意思表示を明確にした上で、その根拠となる理由や経験を書くことができています。解答欄に記述した児童は98%程度で、話題とかわらせながら書こうとする児童の意欲をみることができた。誤答では、自分の立場を明らかにしていない、自分の考えが書けていない、意見と事例が合致していない、文章の組立ができていない等がみられた。

(3) 分かりやすく伝えるための筆者の書き方の工夫を考えながら読む力をみる問題の例

(「読む能力」)

<問題> □ の二

- 二 「あなたがふだん手にしている本やノートの紙が、……」は、最初の段落です。この段落で、筆者の森島さんは、読者を引きつけるために工夫をしています。工夫していることがらを次の中から一つ選び、その記号を □ の中に書きましょう。
- ア 段落の最初に自分の意見を述べ、次にその理由を説明している。
- イ 紙すきの経験から自分が学んだことを説明している。
- ウ グラフを示したり、数値をあげたりしながら説明している。
- エ ほかの学者の意見を取り入れて、くり返し説明している。

<結果> 正答率 74.3% (正答...ウ)

<分析>

筆者が自分の考えを分かりやすく伝えるために、最初の段落で工夫していることを見出し、情報を正しくとらえているかを調査する問題である。文末表現に着目して読み進めていくことによって「知っていますか。」「下のグラフを見てみましょう。」「紙の原料の九十五パーセントは…」という叙述の工夫に気付いていると思われる。誤答で多かったものが、アである。「各段落の果たす役割の理解」「表現の特徴を捉える力」が、十分身に付いていないと考えられる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・年間指導計画では、学校の実情や児童の実態に即した単元の配列と配当時間を工夫し、特に「読むこと」の指導事項「エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」を重点とした単元を設定する必要がある。その際、2学年のまとまりを生かした指導内容の適正配置及びその定着を図るための領域の関連付けを工夫していくことが大切である。また、単元指導計画においては、単元の具体的な評価規準を設定すること、適切な言語活動を通して指導することなどが重要である。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」においては、話し手の意図は何か、自分に伝えたいことは何か、それを伝えるための適切で効果的な組立や言葉遣いはいくつかを考えながら話の内容を聞き取る力を育てていく指導が必要である。そのために、日常生活に関連する具体的な場を設定し、五つの言語意識を明確にすることが大切である。さらに、話したり聞いたりしたことに対して、児童が互いに質疑応答できる場(相互評価)を意図的に位置付けることが重要である。
- ・「書くこと」においては、自分の考えの根拠となる事柄や具体例などを適切に選択、配置しながら目的や意図に応じて筋道立てて書く力を育てていく指導が必要である。そのために、目的や意図を明確にもって書く場面を設定したり、優れた表現を通して材料の効果的な取り上げ方や文章の構成について主体的に気付かせたりしていくことが大切である。また、自己評価や相互評価を位置付け、表現することの価値を実感させていくことが重要である。
- ・「読むこと」においては、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる力を育てていく指導が必要である。そのために、文章構成や語句の使い方、文末などの表現を手がかりに重要語句をとらえたり筆者の主張の軽重を読み分けたりする指導を行っていく必要がある。また単元構成をする際、単元の出口を明確にし目的的な読みを促すとともに、1単位時間の指導内容を絞り込んでいくことが重要である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・国語科の授業で身に付けた力を、日常生活の中で発揮することができるように学校教育全体の中での国語科の指導、他教科等における国語科の指導との関連を図るようにする。その際、学校図書館の整備と活用にも配慮していく。
- ・辞書類の使用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、音声言語・文字言語両面にわたる言語環境を整備していく。